

天気図書いてみた～気象通報から天気図を自分で書いてみる

小学6年生のとき、夏休みの宿題に困っていたら4歳上の兄から天気図記号について教えてもらって、NHK ラジオの気象通報という番組を聞いて天気図を書くことを思い立った。友達も少なく夏休み中ずっと家にいた私は、毎朝9時からだったかNHK ラジオを聞きながら同時に天気図に記号を書き込んだ。

気象通報をご存じの方もおられると思うが、ラジオでひたすら各地の風向、風力、天気、気圧や、低気圧や高気圧の位置、前線の位置、等圧線の通る位置などを緯度と経度で淡々と報告されていく。最初は天気記号を覚えきれずにラジオから聞こえる速度が速いと感じたが、慣れていくと余裕が出てきて楽しくなる。

天気図作成の面白さはたくさんある。まずは低気圧、高気圧、前線をきれいに色鉛筆で記入する。前線の曲がり方(温暖前線なら上に凸、寒冷前線なら下に凸)を意識し、たまに閉塞前線があれば紫色を使えるのでテンションが上がった。さらに自分の感覚を信じて等圧線を引く、日本を中心とした東アジアから太平洋までの天気図用紙全体を眺めながら引く。お手本となる等圧線はラジオでは1本か2本しか言ってくれないので、あとは自分で各地の気圧を把握しつつ、等圧線が交差しないように注意して引く。楽しかった。船舶からの情報というのもあって、太平洋や東シナ海など定点観測できない場所での気圧が報告される。報告をしてきたひと(漁業をされているのだろうか?)のことを思うと「ありがとう」と言いたくなる。

天気図作成は自分の娘たち2人の夏休みの宿題にも使った。が関心は薄く、ほぼ親が書いてしまった。

久しぶりに天気図を書いてみた。正式な記載ルールも忘れていて完全ではない図でちょっと恥ずかしいが。

